

NICT NEWS

独立行政法人
情報通信研究機構

2009
NOV
No.386

11

National Institute of Information and Communications Technology

NICTスーパーイベント特集

情報通信研究機構の成果を結集した
「NICTスーパーイベント2009」を開催

産学官連携の出展やシンポジウムなど多彩なプログラムで
ICTの今と未来を共有

1

情報通信の未来

情報通信研究機構(NICT)が語る、これからのビジョン
NICTスーパーイベント2009シンポジウムを開催

3

セミナー実施報告

展示内容紹介

人へ、地球へ、未来へ。

NICTの最新の研究成果を展示

7

6

5

トピックス

ITU世界テレコム2009

国際通信とICT分野における世界最大規模のイベント

9

産学官ビジネスフェア2009に出展します

11

第3回ユニバーサルコミュニケーション国際シンポジウムを開催します

11



情報通信研究機構の成果を結集した「NICTスーパーイベント2009」を開催

産学官連携の出展やシンポジウムなど多彩なプログラムでICTの今と未来を共有

アジア最大級の最先端IT・エレクトロニクスの総合展「CEATEC JAPAN 2009」（10月6日

（火）～10月10日（土）…幕張メッセ

において、「NICTスーパーイベント2009」を開催しました。「人

へ、地球へ、未来へ。ICTの最新研究。」と題して、最新研究成果

の展示やシンポジウム、セミナーと、多彩なプログラムを用意して

来場者をお迎えしました。

4つのゾーンを核にした成果展示

今回の「NICTスーパーイベント」は、展示ブースを大きく4つのゾーンに分け、見やすくわかりやすい展示を目指しました。受付を囲むように「新世代ネットワークゾーン」、「安心・安全のためのICTゾーン」、「ユニバーサルコミュニケーションゾーン」、そして「産学官連携ゾーン」を配置しました。

より便利・快適に

「新世代ネットワークゾーン」では、ネットワークが抱える課題を既存の技術にとらわれない発想で根本から解決する研究開発や、バイオICTの一環として、脳機能に学び未来の情報通信に活かす情報通信の研究を紹介しました。例えば、15年先のまだ見ぬ理想のネットワークである「新世代ネットワーク」を実現するための研究開発戦略。これからの高速・大容量データ通信を支える光通信技術。いつでもどこでも快適で頼れるサービスを提供するための、モバイルとセンサが連携するネットワーク技術や最適な無線通信環境を自動的に選択するコグニティブ無線システムなどを紹介。また、新世代ネットワークに向けて、実証実験を行いながら新しい技術開発を行うことができるテストベッドとして、「JGN2 plus」を紹介しました。

より安心・安全に

「安心・安全のためのICTゾーン」では、情報通信環境の安心・安全を守るセキュリティ技術や電磁環境の計測技術、可視化技術の研究開発、災害や非常時の被害を最小限にすることを目指すICTを紹介しました。例えば、ネットワーク上で、インシデント（セキュリティ事故）の原因になるウイルスなどを解析し、迅速で適切なインシデント対策を導き出すインシデント分析センター（nicter）。災害時に役立つ様々な「サイババルケータイ」。電磁環境を理解し、良くするための電磁波計測技術やテラヘルツカメラなど、これからの情報通信に欠かせない技術を紹介しました。

より楽しく・創造的に

「ユニバーサルコミュニケーションゾーン」では、言語・文化・距離な



どの壁を越えて、誰もが自由にコミュニケーションするための研究や、より人間中心のコミュニケーション環境を目指す研究を紹介しました。例えば、NICTが進める音声・言語処理技術の世界的研究開発拠点となる「MASTARプロジェクト」からは、携帯型音声対話システムや言語基盤技術、多言語翻訳技術を紹介。さらに、「大画面裸眼立体映像提示システム」や「多感覚インタラクションシステム」など、ユーザに臨場感あふれる映像や音響、感覚を提供する最先端技術を、体験型の展示により数多く紹介しました。

より強く・産学官の連携

「産学官連携ゾーン」は、NICTが企業や大学などと連携することで生まれた成果を紹介するエリア。NICTではわが国の総合的な研究開発強化のため、様々な連携・支援制度を設けています。この中から民間基盤技術研究促進制度の成果事例や、情報通信ベンチャーへの助成事例などを多数展示しました。また、NICTから技術移転可能な特許・ノウハウの概要紹介も行いました。

情報通信の未来を語り、 今とつなぐ、シンポジウムやセミナー

「NICTスーパーイベント」では、NICTが情報通信の未来を語るシンポジウムも大きな柱の1つになっています。開催2日目の10月7日(水)に、幕張メッセ国際会議場において開催したシンポジウムでは、5人の講師により、未来を展望した講演を行いました(3~4ページ参照)。



また、スーパーイベントのもう1つの柱であるセミナーは、CEATEC出展者セミナーとして3つのプログラムを用意していましたが、8日のあいにくの台風の影響により、10月9日(金)の2つのプログラムのみの開催となりました。会場はNICTの展示ブースがある展示ホール5のCEATEC出展者セミナー会場。ユ

ニバーサルコミュニケーションゾーンでの体験型の展示と対応した、ユニバーサルコミュニケーションを支える基盤技術の研究成果発表と、技術移転可能なシーズ紹介などをテーマに実施しました(5ページ参照)。



スーパースーパーイベント2009を 終えて

5日間のCEATEC開催期間中の来場者数は約15万人で、そのうちNICTの展ブースへの来場者は推定で4万4千人でした。CEATEC来場者の30%ほどが、NICTブースに足を運んでいただけなことになります。来場者のアンケートの結果からは、CEATEC会場でNICTのブースを見つけて入って来られた方が多いという傾向が見られました。CEATECという大規模な展示会に出展することで、NICTの存在をア

ピールすることができたと思います。CEATEC全体の傾向として、今年3D映像技術に注目が集まり、NICTブースでも裸眼立体映像提示システムに連日長蛇の列ができていました。ユニバーサルコミュニケーションゾーンの展示は、視覚などに訴える内容が多く、人目を引き易いため人気が集まることは予想されていましたが、来場者のアンケートからは、新世代ネットワークゾーンへの関心も高かったことがうかがえました。



展示だけでなく、シンポジウムもセミナーも会場がほぼ満席になる盛況ぶりです。NICTの活動への関心の高さを改めて感じる5日間となりました。来年はNICTスーパーイベント2010を開催する予定です。今回、この誌面でしかご覧いただけなかった皆さまも、来年は是非ご来場いただければ幸いです。

情報通信の未来

情報通信研究機構(NICT)が語る、これからのビジョン

NICTスーパーイベント2009 シンポジウムを開催

NICTは、「NICTスーパーイベント2009」の中で、未来の情報通信を見据えて進める最新の研究開発やプロジェクトについて、より多くの方々とビジョンを共有するために、「NICTシンポジウム」を同時開催しました。このシンポジウムはCEATECのコンファレンスの一つという位置づけで行ったものです。

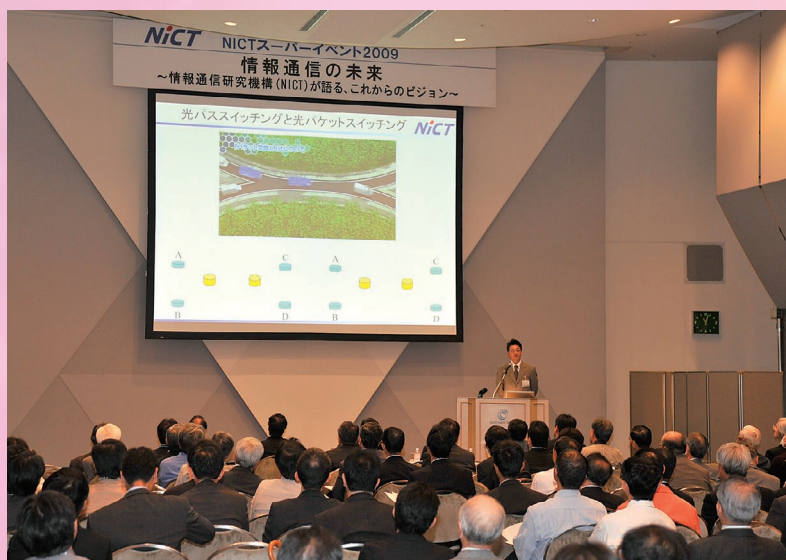
5人の講師が ICTの未来を展望

「NICTスーパーイベント2009」の開催2日目にあたる10月7日(水)、幕張メッセ国際会議場において、NICTの研究開発をけん引する講師によるシンポジウムを開催しました。総合テーマは「情報通信の未来—情報通信研究機構(NICT)が語る、これからのビジョン—」。情報通信分野におけるわが国の唯一の研究機関であるNICTは、基礎から応用

まで一貫した統合的な視点で研究開発を行い、併せて情報通信分野の事業支援等を総合的に行っています。今回のシンポジウムでは、未来の活力ある豊かな社会を展望したICT(情報通信技術)の最新研究を講演しました。

光が支える 近未来のネットワーク

シンポジウムは10時30分に開演。宮原秀夫理事長の開会挨拶に続き、最初に講演を行ったのは、新世代ネットワーク研究開発戦略本部の村田正幸副本部長。これからのユビキタスネットワーク社会を支える「新世代ネットワーク」が、インターネットの改良だけでは解決できない技術的課題や社会的要求を抜本的に解決するために、今後数十年にわたるICT基盤となる技術の一つと期待されていること、そして、それに向かってのNICTの取り組みを紹介しました。伝送路における量的拡大が目標だった従来の基盤技術



●シンポジウム会場風景



●講演を熱心に聴く来場者

に代わり、いかに質を高めていくかが今後の課題であり、NICTが社会的要求を実現するべく策定した研究開発戦略のもと、産学官が連携し、国際協調によって実現していくことの重要性

や、技術的な研究開発課題、そのロードマップを展望しました。

続いて、新世代ネットワーク研究センターの和田尚也グループリーダーは、新世代ネットワークを支える基盤技術となる光ネットワーク技術に関する、最新の研究成果を講演しました。NICTでは光信号を電気信号に変換することなく、毎秒1・28テラビットの超高速転

送を実現した世界最高速度の光パケット交換機を開発しましたが、今後は低消費電力など環境に配慮しつつも、ネットワークに対するユーザからの様々な要求に柔軟に答えていく、光パケット・パス統合ネットワークの開発が必要であることを強調。多値伝送技術や光ファイバのマルチコア化など最先端の技術も取り入れて実現していきたい、と抱負を述べました。

大手町ネットワーク研究統括センターの下條真司センター長は、NICTが中心となって展開している新しいテストベッド「JGN2Plus」について講演しました。光ファイバによるブロードバンド通信を全国に行き渡らせることを推進するために始



● 下條真司
大手町ネットワーク研究統括センター センター長



● 宮原秀夫
NICT 理事長



● 大岩和弘
神戸研究所 所長



● 村田正幸
新世代ネットワーク研究開発戦略本部 副本部長



● 榎並和雅
けいはんな研究所 所長



● 和田尚也
新世代ネットワーク研究センター グループリーダー



● 富永昌彦
NICT 理事

脳機能研究を将来のコミュニケーション技術へ活かす

今年20周年を迎えた神戸研究所から

まったJGNが今日までに果たした役割や、今年7月22日の皆既日食時に、JGN2Plusを使って映像を各地にライブ中継した実績。そして今後の構想として、ネットワークをよりダイナミックに利用する仮想ネットワーク化などの実験、クラウド・コンピューティングなどの新しいテストベッド構想について述べ、そこではNICTの高精細3D映像など先端技術が使われ、将来は、各家庭でもそれらの映像を見ることができるようということ

を予測しました。

は、大岩和弘所長が、脳情報から捉える情報通信について、NICTが進める先端研究を講演しました。140億個の神経細胞が作り出す、極めて複雑なネットワークシステムである脳。生物の持つこの優れた能力を応用して、将来のコミュニケーション技術の基盤づくりを活かしたいと期待を込めて述べました。そのために、fMRIなどの非侵襲で脳機能を計測できる装置にNICTが誇る独自の技術を駆使して、総合科学としての脳情報通信融合研究を進めていくと語りました。

最後は、けいはんな研究所の榎並和雅所長が、超臨場感コミュニケーションの未来像について講演を行いました。3D立体映像や超高精細映像など人間の五感に訴えるスーパーリアリティと、さらにこれを超える、より深い感動・より深い想像力につながるメタリアリティの2

つの定義を合わせ持つ「超臨場感」の実現に向けて、ユニバーサルメディア研究センターで開発を進めていることを紹介しました。

定員200名の会場は、ほぼ満席で、シンポジウム講演は富永昌彦理事の閉会挨拶にて終了。その後は、未来を語る熱気に包まれた中、来場者からの質問に受け応えする講師たちの姿がありました。

講演プログラム

新世代ネットワーク研究開発戦略
新世代ネットワーク研究開発戦略本部 副本部長 村田正幸

新世代ネットワークを支える基盤技術
—ユーザが制約を意識しないネットワークを目指して—
新世代ネットワーク研究センター 超高速フォトニックネットワークグループ グループリーダー 和田尚也

Open Innovationのための新しいテストベッド JGN-X
大手町ネットワーク研究統括センター センター長 下條真司

情報通信を脳機能から捉える
—NICTが進める脳情報通信融合研究—
神戸研究所 所長 大岩和弘

超臨場感コミュニケーションの未来と研究動向
けいはんな研究所 所長 榎並和雅

セミナー実施報告

ユニバーサルメディア研究センター

による2事例の「研究成果発表セミナー」及び研究推進部門による3事例の「技術移転可能なシーズ紹介セミナー」を10月9日に開催、各テーマ定員75名の会場はほぼ満席でした。8日に予定していた「産学官連携・支援制度の成果発表セミナー」は台風のため中止、翌日NICT展示ブース内の産学官連携ゾーンにて一部実施しました。

研究成果発表セミナー

最初の講演は栗田泰市郎グループリーダー（ユニバーサルメディア研究センター超臨場感基盤グループ）による「立体映像・音響の忠実な再現を目指した超臨場感基盤技術」。世界に先駆け、実写・動画像表示をリアルタイムで可能にするホログラフィーの電子化システムと、立体音響を実現するための、全方向に異なる放射特性を有する球体及び箱型の試作スピーカーにつ

いて説明を行いました。

続いて、安藤広志グループリーダー（ユニバーサルメディア研究センター超臨場感システムグループ）による「人に最適な多感覚情報システム技術」。人が感じる臨場感は、(1)空間的要素（例えば、立体感や質感）、(2)時間的要素（例えば、映像と音が同時に感じられる同期感）、(3)身体的要素（例えば、自身自身がそこにいるように感じる自己存在感や何かを操作すると反応がかえってくるインタラクティブ感）の3要素でとらえることができること。技術的成果として、通常触れることができない重要文化財等の立体映像、感触、音響を再現した多感覚インタラクティブシステムを紹介しました。将来は手術の訓練シミュレーションなどへの応用が考えられます。

技術移転可能な

シーズ紹介セミナー

技術移転可能なシーズ紹介は、土屋



●熱心に語る講演者（上段左から、栗田、安藤、中段左から、土屋、前川、下段、黒田）

●講演に聞き入る来場者



昌弘上席研究員による「RF（高周波）信号伝搬を映像観察できる電界カメラ」で開始。電気光学効果とCMOS技術を有機的に利用することで、従来の計測機器では実現できなかった回路内高周波信号伝搬のその場観察が可能となりました。高速高周波回路の設計や診断に威力を発揮することが期待されます。

次は、前川聡主任研究員（ユニバーサルメディア研究センター超臨場感システムグループ）による「空間映像インタラクティブシステム」。空中像に触れようと長蛇の列が並ぶ展示、フローティングタッチディスプレイについて、結像の特徴や技術的背景の紹介に加えて、光学素子の加工精度、サイズ、コスト等、進行中の課題を説明しました。

最後は、黒田正博マネージャー（研究推進部門標準化推進グループ）による「省電力セキュリティ無線センサと見守りネットワーク」。NICTがけん引して標準化作業中のIEEE802.15.6を想定した仕様で、セキュリティを確保して無線で生体情報を管理する、安心見守りシステムを紹介。このシステムを用いた家庭での健康管理も実用間近です。また、同技術を用いた新健診システムも紹介。これらは、神奈川県予防医学協会、横浜市立大学医学部、及び企業群との協力関係のもと、研究開発プロジェクトとして進めています。

セミナー終了後、ブースでの各研究者への質疑応答は閉館時刻になっても終わらないほど来場者の関心を惹きつけていました。

展示内容紹介

「新世代ネットワークゾーン」ーより便利・快適にー

- 新世代ネットワークの戦略
ー15年先のまだ見ぬ理想のネットワークを目指してー
- 脳から始まる未来の情報通信
ーNICTが進める脳情報通信研究ーNIRS・KARC紹介
- すみずみまで光通信
- 衛星通信技術を地上通信に応用ーテラビットを超える光無線通信ー
- ギガ(G)からテラ(T)、そしてペタ(P)へ
ー光バス・パケット統合技術ー
- アップロードも超高速、高精細映像配信もできる
ー光アクセスの最先端技術ー

- 快適・頼れるネットワーク
- 「今」「この場所」で「あなたに合った」情報を
ーモバイルとセンサが連携するネットワークー
- 混雑したネットワークをナビー大規模ネットワーク管理・制御ー
- 無線資源の有効活用の新たな世界標準
ーコグニティブ無線システムー
- テストベッドネットワーク
- 新世代ネットワークに向けてー「JGN2plus」での研究開発ー
- StarBEDーユビキタスネットワークシミュレーター

「安心・安全のためのICTゾーン」ーより安心・安全にー

- 超高解像度で見るNICTの安心・安全技術
- 電磁環境を良くするためのEMC計測技術
生体電磁波計測
APD測定
高感度電磁測定
NICT/EMC-net
- ICTによる安心・安全を実現するためのテラヘルツ技術
- インシデント分析センターnicter

- 「サバイバルケータイ」ー災害時に役立つケータイたちー
汚れに強いIDリーダ付きケータイ
GPSが届かない地下でも位置がわかるケータイ
みんなで譲り合えば、みんながつながる
よその携帯電話会社の基地局を非常時に使えれば?!
基地局が倒れても「バケツリレー」でつながる
被災調査端末に早変わりするケータイ
災害現場に情報を書き置きできるケータイ

「ユニバーサルコミュニケーションゾーン」ーより楽しく・創造的にー

- 大画面裸眼立体映像提示システム
- 超臨場感音響システム
- フローティングタッチディスプレイ
- 多感覚インタラクションシステム
- 図鑑から絵を取り出して手で立体的に観察gCubik+
- 多言語観光情報サービスシステム
- ナレヅクラスタシステム
ー世界の動きと私の暮らしをつなぐ次世代Webプラットフォームー
- Web情報信頼性分析システムWISDOM

- MASTARプロジェクト
 - WWW上の知恵を自ら学びとるレシピ検索/推薦システム
 - 「超」多言語翻訳システム
 - 概念辞書ー自動増殖する検索ディレクトリ: Web上の知の自動集積ー
 - 携帯型音声対話システム
 - 多視点映像システム※
 - 立体ハイビジョンシステム※
 - 4K超高精細全天映像伝送システム※
- ※超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム (URCF) との共同開発

「産学官連携ゾーン」ーより強く・産学官の連携ー

- NICT産学官連携・支援制度の紹介
- 民間基盤技術研究促進制度の成果事例

「安」「早」「正」偽造防止決定版	シヤチハタ(株)
超高速PONシステム	沖電気工業(株)
光制御型衛星搭載アレアンテナの開発	三菱電機(株)
全光ネットワークの実現に向けた波長分散補償制御技術	三菱電機(株)
磁界センサを用いた電波受信装置	(株)タキオン
牛の分娩・発情検知センサーによるITネットワーク形成	(株)ワコムアイティ
- 情報通信ベンチャーへの助成事例

NextGenクラウドコンピューティングーXaaS on RCMー	(株)キャトルアイ・サイエンス
地上デジタル放送自動テストシステム	バルテス(株)
モバイル向けコンテンツ入りmicroSD活用ソリューション	(株)セントリック
人材育成型グループウェア「則天」	(株)メディア・ファイブ

- 情報バリアフリー事業への助成事例

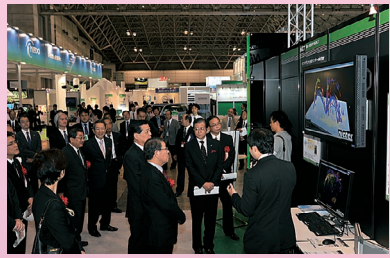
電話対応サービスのユニバーサル化促進プログラムの開発及び提供	(株)パステララボ
聴覚障害者向けリアルタイム字幕配信と地上デジタル放送への対応	NPO法人シーエス障害者放送統一機構
FAXと携帯電話などを利用したコミュニケーションツール	(株)ユニコム
インターネットを利用した聴覚障害者向けDVD等への字幕提供	(株)キュー・テック
- けいはんなオープンラボの成果事例
- 技術シーズの紹介

マイクロ波の電界分布を動画で観察
総務大臣認定TLO (NICTインキュベーションズ)
生体情報を遠隔伝送して安心見守り
- 高度通信・放送研究開発委託研究制度の成果事例

ーサービス制御アーキテクチャー
広域ネットワークにおける認証とサービスの連携技術
ネットワーク品質情報を活用した高品質サービス提供技術

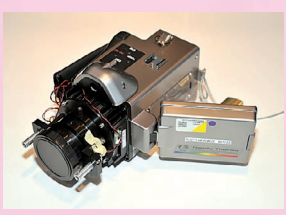
NICTの最新の研究成果を展示

安心・安全のためのICTゾーン

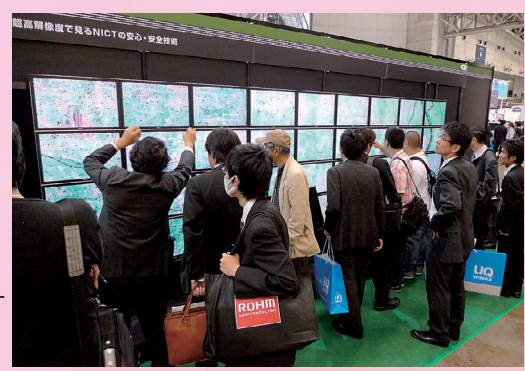


ネットワーク上で発生
するインシデントを、
実時間で高精度に分析
するnicter
(「インシデント分析センター
nicter」)

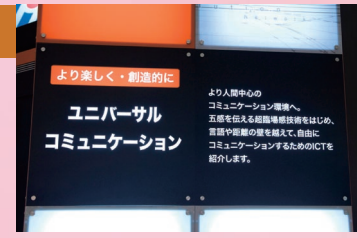
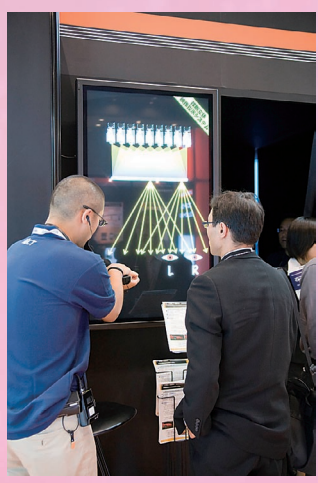
様々な電磁波計測データを可視化す
るタイルディスプレイ
(「超高解像度で見るNICTの安心・安全技術」)



非破壊検査に革新をもたら
したテラヘルツカメラ
(「ICTによる安心・安全を実現す
るためのテラヘルツ技術」)



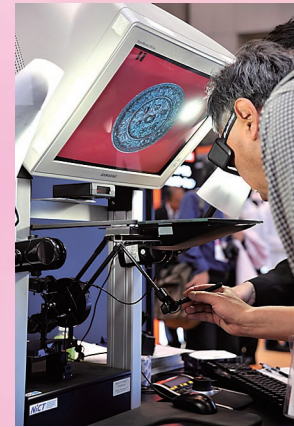
ユニバーサルコミュニケーションゾーン



3Dメガネをかけずに立体映像
を楽しめ、見る角度により映像
が異なります
(「大画面裸眼立体映像提示システム」)



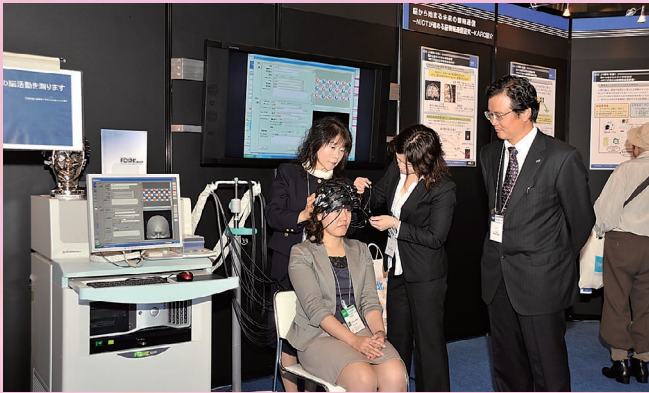
立体映像を手のひらにおいてみ
ると、いろいろな応用が発想で
きます
(「図鑑から絵を取り出して手元で立体的
に観察gCubik+I」)



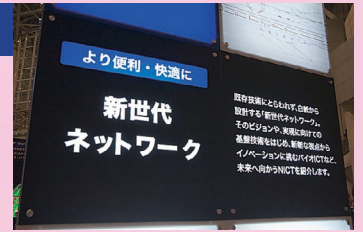
重要文化財も、仮想再
現により、「見て」、「触
って」、「音を聞く」こと
ができます
(「多感覚インタラクションシ
ステム」)

人へ、地球へ、未来へ。

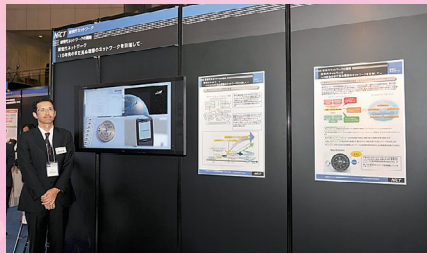
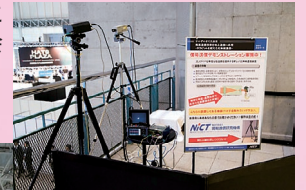
新世代ネットワークゾーン



脳の計測が自然な状態で
できる近赤外光脳機能イ
メージング装置
(「脳から始まる未来の情報通信
—NICTが進める脳情報通信研究
—NIRS・KARC紹介」)



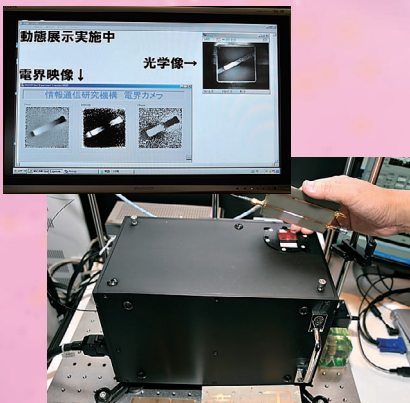
衛星間光通信の研究を地上通信に
活かした光無線通信システムを会
場内で実演
(「衛星通信技術を地上通信に応用
—テラビットを超える光無線通信—」)



既存技術にとらわれず、白紙から設計する「新世代ネットワーク」。
そのビジョンを紹介
(「新世代ネットワークの戦略—15年先のまだ見ぬ理想のネットワークを目指して—」)



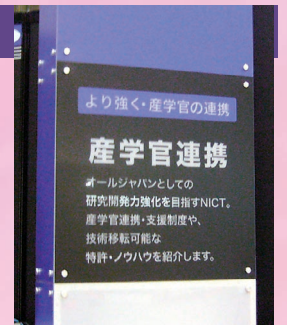
産学官連携ゾーン



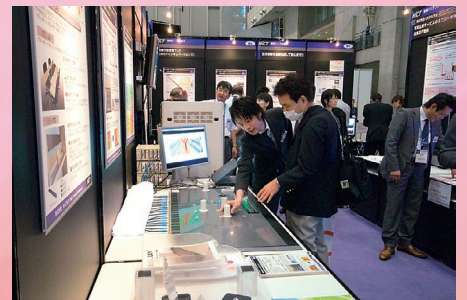
マイクロ波の電界分布を動画で観察
できる電界カメラ
(「技術シーズの紹介」)



牛の分娩・発情検知センサーによるITネットワーク形成
(株)ワコムアイティ
(「民間基盤技術研究促進制度の成果事例」)



産学官連携ゾーンで
行われたセミナー



けいはんなオープンラボの成果事例

コム 2009

WORLD 2009

る世界最大規模のイベント—

研究推進部門 藤田 清太郎、クラウド ヴェルナー
総合企画部 西永 望、平紙 幸一

ターから“Multi-lingual Speech-to-Speech Translation System (多言語音声翻訳システム：音声認識、機械翻訳、音声合成技術を連携することで多言語間の音声から音声への翻訳を行うシステム)”、新世代ワイヤレス研究センターから“Broadband Wireless Access on Air in the Near Future(空に実現するブロードバンド通信：航空機内で光ファイバークラスの高速なインターネット環境を提供するシステム)”、及び総合企画部 新世代ネットワーク研究開発戦略推進室から“Toward the New Generation Network (新世代ネットワークを目指して)”と“NICT NWGN Vision and Five Network Targets (NICT新世代ネットワークのビジョンと5つのネットワークターゲット)”について、それぞれパネル展示を行いました。

併せて、“Floating Touch Display”及び“Multi-lingual Speech-to-Speech Translation System”については、それぞれ、先進の技術開発を駆使したデモンストレーションを行いました。見学者は、興味津々な様子で列を作り、実体験していました。そして、幾度となく“Amazing”、“Incredible”と賞賛の声があがり、大勢の方々からNICTの着実な研究開発が将来のICT社会に役立つであろうとの評価を受けました。

また、ITU世界テレコムフォーラムでは、10月8日(木) 11:00～12:00、“Future Internet”について、パネルディスカッションが行われ、NICTからは、宮部理事がパネリストとして出席しました。ディスカッションでは、現在のインターネットに代わる新しいネットワークの必要性が確認され、新しいネットワークにスムーズに移行できるような設計が重要というコメントがありました。



フォーラム会場の模様

ITU 世界テレ

ITU TELECOM

—国際通信とICT分野におけ

開催期間：2009年10月5日(月)～9日(金)
 会場：PALEXPO (スイス・ジュネーブ)
 来場者数：20,000名

国連の機関である国際電気通信連合 (ITU) が主催するITU世界テレコムは、国際通信とICT分野における世界最大規模のイベントとして、ほぼ3年ごとに開催されています。今回のITU世界テレコム2009は、ITUに加盟する産業界も含めた様々な階層の機関・組織が、未来を見据え、興味を引く多方面の出展をすることで、世界にまたがる真の国際通信とICTプラットフォームの構築を目標に開催されました。

NICTは、NHK及び三菱電機とともに、日本パビリオンの1コーナーとして出展しました。同コーナーでは、NICTがユビキタスネット社会の発展に貢献する「知的創造社会」の実現に向け、研究開発のための主要テーマとしている「安心・安全のためのICT」、「ユニバーサルコミュニケーション」、「新世代ネットワーク」についての概説“About NICT”に加え、ユニバーサルメディア研究センターから“Floating Touch Display (フローティングタッチディスプレイ：NICT開発の光学素子を用いた、空中映像が操作可能なディスプレイ)」、知識創成コミュニケーション研究セン



NICT 展示コーナー



フローティングタッチディスプレイ展示風景



多言語音声翻訳システム展示風景

出展します

産学官ビジネスフェア2009

NICTは、平成21年11月25日(水)～27日(金)の3日間、東京国際展示場(東京ビッグサイト)で開催される「産学官ビジネスフェア」に出展します。

同フェアは、日刊工業新聞社の主催で、2004年から昨年までは「産学官技術交流フェア」の名称で毎年開催されてきたものですが、今回からは、「産学官連携は、“交流”のステージから“ビジネス”のステージへ移行し、いかに連携の成果を周知して実りのあるもの(“売る”)にするかという取り組みが求められている」という主催者認識のもと、名称を「産学官ビジネスフェア」と改称して開催されます。

NICTの展示ブースでは、産学との連携などによる研究で生み出された先端技術の一端を、その応用事例提案なども含めて紹介し、技術移転や産業化促進の契機となることを訴求するほか、NICTが社会へ提供しているサービスを一層効果的に利用するための機器の紹介、産学官連携に関する制度の紹介などを行います。



昨年の産学官技術交流フェアでのNICTの展示ブース

会期：平成21年11月25日(水)～27日(金) 10:00～17:00
会場：東京ビッグサイト 東ホール(東京都江東区有明)
入場：無料 (<http://www.nikkan.co.jp/eve/sangakukan/>)

お問い合わせ先 | TEL: 042-327-7567 (担当：小峯、幡手)
E-mail: intcoop@ml.nict.go.jp

開催します

第3回ユニバーサルコミュニケーション 国際シンポジウム IUCS2009

NICTは、平成21年12月3日(木)・4日(金)に東京の日本科学未来館において、「第3回ユニバーサルコミュニケーション国際シンポジウム(IUCS2009)」を開催します。本シンポジウムでは、音声翻訳技術、情報分析、ヒューマンインターフェース、3D映像を含む超臨場感コミュニケーション技術など、人間中心のコミュニケーション環境を実現することを目指した「ユニバーサルコミュニケーション」分野における研究開発成果の講演、ポスター発表及びデモが行われます。全体セッション(日英同時通訳つき)におきましては、ソニーコンピュータサイエンス研究所の所眞理雄社長及び海外から2名の講師をお招きして基調講演が行われます。詳細は下記Webページをご覧ください。関連分野の方々のご参加をお待ちしております。



本シンポジウムへのご参加には、参加登録が必要で、有料となります。
IUCS2009 Webページ <http://www.i-uc-s.org/2009/>

お問い合わせ先 | TEL: 042-327-7911 (担当：庄野)
E-mail: iucs2009@khn.nict.go.jp

読者の皆さまへ

次号は、ユニバーサルコミュニケーションを支える言語基盤技術の研究をインタビュー記事として取り上げます。

NICT NEWS 2009年11月 No.386

編集発行
独立行政法人情報通信研究機構 総合企画部 広報室
NICT NEWS 掲載URL <http://www.nict.go.jp/news/nict-news.html>

編集協力 株式会社クリエイト・クルーズ

〒184-8795 東京都小金井市貫井北町4-2-1
TEL: 042-327-5392 FAX: 042-327-7587
E-mail: publicity@nict.go.jp
URL: <http://www.nict.go.jp/>

〈再生紙を使用〉